

## 私たちは何者であるか？

「ご当地ナンバーの導入で故郷への誇りと一体感を育み、地域の将来展望の第一歩を。3市2町が連携し、広域的な課題に取り組んでいこう」5人の首長が思いを共有し、実行委員会を立ち上げて取組みを進めてきました。東京オリンピック前の認定もめざしたかった。名前付けは難しい。ふさわしい名称を議論いただいた推進協議会からの答申は「雪国魚沼」。3市2町がまとまっていくには「なるほどこの名称か」。清廉な美しい雪のイメージ、大きな発信力にもなる。私はすばらしいと思います。国に名称を申請した後は、図柄も決めていける。思いをめぐらせていました。しかし、報道のとおり断念に至りました。湯沢町の先行アンケートの結果による離脱や反対署名の動き。これらを受け、「おおむねの地域同意」が必要不可欠としてアンケート調査を実施。結果、約7割の「長岡」支持。民意は厳粛に受けとめなくてはならない。

ご意見もいただきました。敗者の負け惜しみととられるかもしれないが、時間が足りなかった。議論や意識を高めることができなかった。実行委員会も即日解散。「残念だが、5市町の全首長が初めて集まって進めたことは意義深いこと。今後、さまざまなことで連携して推進できる第一歩じゃないか」参画の首長全員がその思いでした。

断念したことよりも、私が残念だったのは、多くの人が持つ「雪国」や「魚沼」への負のイメージの強さでした。「ダサい、暗い」の声も多くあった。外国人旅行者なども含め市外の人が持つ雪国への美しいイメージに対して、我々が自己否定をし過ぎていないか。この地域の将来を長期的な視野で考えたとき、世界がうらやむブランドになりえる核とは、私たちは何者であるか？「雪ありて縮あり」と昔人は著しました。「雪ありて魚沼あり」私たちが自らを肯定することがなければ変わらない。負を強い自負心に。その思いがなくて、市長など一日も務まらない。今回は深く反省しつつも、次の挑戦を考えていきたいと思えます。

## 国際大学留学生 お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

シリーズ  
第60回

## ニジェール共和国 ディアウガ ハミドゥ スレイマンさん



## 私の国はこんなところ

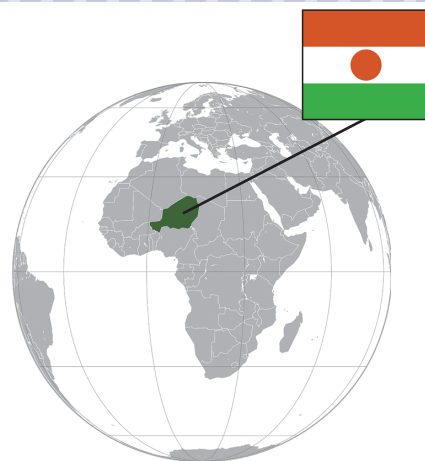
ニジェールは、西アフリカの内陸にある国で、地理上では北アフリカとサブサハラアフリカに接しています。首都は、南西部に位置するニアメです。8つの民族が、仲よく暮らしています。もしニジェールに来ることがあったら、ドゥブルヴェ国立公園に行ってみてください。乾燥した

サバンナ地帯と、熱帯雨林の湿地帯という異なる2つの環境下で、多種多様な野生動物に出合えるだけでなく、ユニークな特性をもった植物をたくさん見ることができます。食べ物では、キリシという秘伝のレシピで作られる、ビーフジャーキーのようなドライビーフをぜひ味わってみてください。

レスリングのような相撲が国技で、毎年チャンピオンを決める大会が行われます。

## 南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼で好きな場所は、八色の森公園と、スキーやスノーボードを楽しむことができる八海山麓スキー場です。好きな食べ物は鮭で、近くのワイナリーのぶどうジュースと一緒に食べるのが楽しみです。外国人にとっても親切にしてくれる地域のみなさんには、とても感謝しています。



## ニジェール共和国

[公用語]	フランス語
[首都]	ニアメ
[面積]	1,267,000 km <sup>2</sup> (21位)
[人口]	16,899,327人 (63位)
[GDP(PPP)]	101億ドル (132位)
[通貨]	CFAフラン (XOF)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です